

# 山林火災跡地憩いの場に

東御

東御市下之城で昨年5月に起きた山林火災の跡地を再生させようと、地元山林地権者でつくる田之尻地域里山整備推進委員会が28日、現地で初めての植樹会を開いた。協力するNPO法人・森のライフスタイル研究所(本部・伊那市)が首都圏で募ったボランティアや地元住民ら約150人が参加。1・5畝ほどの斜面に広葉樹の苗木約5600本を植えた。

火災は昨年5月6日、田之尻公民館の西側で発生。松やクヌギ、竹などの山林約3・5畝を焼いた。地権者らは具を通して3月、森づくりに取り組んでいる同法人と協定を締結。都内の大手石油会社の環境保全活動支援基金を活用し、住民が憩える森林として再生させることにした。

既に遊歩道を整備しており、植樹は本年度から3年かけて行う予定だ。

## ボランティアや住民 初の植樹会

この日は、参加者たちが斜面にくわで穴を掘り、コナラやケヤキ、桜などの苗木を一本ずつ

立てて丁寧に土をかぶせた。2年前から同法人の植樹活動に参加している保育園長の弓指賢さん(35)は「東京は「山林火災現場の再生は初めて。すてきな場所になってほしい」と話していた。



山林火災の跡地に苗木を植えるボランティア